時事新報

僧醫論重ねて大澤氏に答ふ

本月廿七日の時事新報に掲げさる僧醫論に付き大澤氏より重ねて左の書を寄せられたり

拝啓陳者貴社僧醫の御論に不服の旨申入候處早速御答辯に預り忝く奉存候扨御論の始に僧侶に醫業は叶はずとの理由は愛取がたしとて現る西洋諸國の僧侶は宣教の傍に醫を兼る者多きにあらずやと申されたれ共是は吾邦等に渡來の宣教師が醫術を踏臺として其目的を貫かんと企し者にして其本國なる英獨佛等に於て試斯の如き事は無しと心得候次る小生が今日の民は昔日と同じからずと申候は富の度も幾分か加はり智識も幾さかと申心組にて尚詳しく申さば總て動物は階級の進むと從つて外來の刺戟に對し大なる反動を起す者にして例之ば犬猫の外傷は甚めて置けばよろしきも人智に於ては充分の手當を要するが如く医學術も限らず人智の進むに從て需要の種類も多く其程度も高くなり供給も之に伴隨すべしと申述る心組に有之候處匆卒に筆を下し爲めに意義明瞭あらず恐縮の至に候

貴者は之に反し邦民の大數は無智なり貧窮なり貴藥に命を托して安心する者もあり甚しきは至りては藥餌を求むるの錢さへ無き者あるにあらずや假令明醫ありと雖巧手段を施すに由なし斯る狀態に於ては醫術の大趣意を心得たる者ありて直に治療を施すに非るも深切に忠告を與ふるが如き其功德如何ばかりぞやと述られ一應御尤の次第なれ醫者は食はずに高樓枝民は食はずと無費療治と申樣に相成りては由々しき事に候へ共小生迚も只學理の一方にのみ着眼して錢の事を問はざるにも無之候明治廿年に米の產出高は三千九百九十九萬九千百九十九石なりして其價格は一石平均四圓七十一錢又麥は一千五百八十二萬三千百四十四石にして一石の價は三圓十二錢五厘なり之を人口三千九百萬に配當すれば一人一箇年の所得は殆んど七圓なり本邦の產物中最大の位置を占めたる米麥にして既に斯の如し其他の穀類野菜類製茶蠶絲水產林產礦山及製造品を合算するも一箇年一人に付十八圓廿五錢即ち一日五錢の所得は覺束なし又全國の農工三十一種の平均一日の稼高は凡そ廿四錢なり當て邦人は戶主一人に付家族三、八五人を養へり家族は少しも稼かざる者として右の廿四錢を四、八五人に配當すれば一口の所得四錢九厘四毛となる多少技藝ある者にして斯の如し農家の生計推して知るべし又同年の租稅（國稅地方稅區町村費）は一人前二圓九十餘錢なり困窮の程も思ひやられて歎息の外無之候

因に記すエンゲル氏か伯林農會に於て演說せし所に依れば獨逸人か一日の活計に費す所は食料四六四片衣服一二、五五片家賃七、三二片薪炭及點灯料五、六八術生費二、六六雜費一一、三片合計七十六片なりと云ふ之を今日の邦貨に改算すれば凡そ廿四錢なり

前日も述たる如く病氣に罹る時は日常の廢即ち稼業を失ふたる上に藥餌謝金等の費ある者なれば一日の損氣は出入十錢乃至十二三錢の損毛なり勿論戶主の一家と家族とは自ら差異あるべきなれ其家內に病人あるときは餘人迄も事務に煩ひの患あり故に一日の病氣に減すれば少なくも十錢の益を得たる外に病苦を除かるゝの得あり是れ小生が上醫を推奬すべしと申す理由に候なり今現彼に外國の例に由り死者一人に付きとして白耳義治五年至同廿年十六年間の平均を取るに一箇年の死者數は貳萬二千三百八十餘萬人にして此總計數は四億七千六百萬餘日此損毛一日十錢と積て六十億六百萬圓あり貴人は最大の金額と云ふ損害なれば之は醫の師とも起すべき筆なれ共小生は醫術を知らざるなれば之を論ずるの資格なしと雖も上記論題日數の計算は百七十六萬餘圓の損毛と何れ共分洪大の國稅とも云つべし小生が醫術の損益

よして多數あらんよりは精巧よし少數なりと云へる事は既に數度も此の故に候なり此少數と云へる事は就ては議論もあるべきなれども醫師の數過大なるときは其所得從て減少し術の精巧を欲するも能はざるべし醫師は人口との比例は醫師一人に付人口六百なるを最大とし（米國）一ト七千五百（シュヴェーデン國）なるを最小とおすやに憶居候小生考ふるに其配布宜きを得るときは一ト千五百ゑて充分なるべし然るゑ昨年末には現在醫師の數四萬餘人にして一ト一千よりも大なる比例なり而して向後倍々醫師を增すべきの傾向あり故に目下の要務は醫師の濫觴を防禦し其配布を平等にし其學術を精巧ならしむるにあり僧侶にして教師醫師を兼業とし其上にも本分たる宗教に從事するとを得は生は僧醫の御說に感伏すべし況んや患者を毒殺して本分の所得を增す等の惡萬あらざるゑ於てをや乍去僧侶にして此三業を修め熟れも完全なるが如きは配者も固より期せざる所なるべし醫師濫製の害を丁承あらば生が不伏を唱ふるの理由も自ら明ならん

尙醫師の教育に關ては不日國政醫學會ゑ於て所考を述ふる心得に候へば雜誌發行の日御一覽可被下候御承知の通り生は專門の學に從事致居候へば世事に疎き所も可有之右所論の如きも尙未だ爐水練たるを免れざるべし配者幸に數を賜ゝ滿足の至に御座候匆々敬具

六月二十七日　大澤謙二　拜

時事新報記者足下

我輩は唯簡單ゑ寄書中の要領ゑ摘して一二の鄙言を呈するのみ英獨佛等の本國ゑは僧醫兼帶の者なしとの來論あれども彼の文明の大都會はいザ知らず交通不便なる田舍國の偏陬ゑ至れば僧侶が醫を兼るのみか醫師ゑして呪を兼帶する者さへなきにあらず實藥は結構あれども素人が何ゝ草の根、木の皮等を干して紙の袋ゑ貯置き病氣の時ゑは此草根木皮を服して安心する者もあるよしなれば歐米の國々にても都會と田舍とは餘はど事情の殊なるゑと〻察し知る可し

又日本に無智貧民の多きは氏に於ても異あきが如し唯氏の立論は斯く貧民多き其中に病氣をしては益々難儀なるが故に醫學を進步せしめ其病を少なくして國の富源を深くせんとの趣旨なるが如くなれども我輩の所見を以て推すれば何程醫學を勸めても其醫療に錢を費すゑと多くしては貧國社會の爲めゑは名醫も其用を爲す可らず夫れよりも唯醫學の大義を大に誤らざる者をして俗ゑ所謂やすがりゑ治を施さしめんと欲するのみ即是れ氏の說と鄙見と相異なる所に者て我輩は事の成否を人間今日の實際ゑ訴るものあり近く其實例を示さん東京は日本國中名醫の藪淵なれども貧困社會の患者を見るゑ曾て名醫の德澤を蒙ざる者多きは何ぞや名醫の離有きを知らざるに非ざれども錢あければ其診察を受けても其差圖ゑ從を名ゑ醫は參らず假令へ診察を受けて藥餌を調ふるに道なし誠に憂念ながら病苦し病死し又は生涯不具と爲りて身を終る者比々皆是れなり醫學の罪ゑ非ず貧乏の致す所なり此大都會に於ても斯の如し況んや片田舍に於てをや我輩は貴民相應にやすあがりの醫を求めざるを得ず唯その醫師が價の低ゑも拘らず醫學の大義をば誤らずして淺學ながらも眞理原則の方向ゑ在らんゑと要するのみ僧侶の爲めに謀りて左さで無學に非ずしてやすあがりの一點ゑ於ては斷して遜あるの可らざるなり

雜報

○高等師範學校　新築校舍落成時刻　●印ハ國府津下リ連絡（發行）六時四十分●七時五十五分、八時二十五分（急行）九時●十時●十時十五分、十時三十分●二時三十分、四時●四時五十五分（急行）六時●七時三十五分、八時四十五分、九時●十時十一時十五分（急行）十一時四十五分（急行）○横濱發（上リ）午前六時、七時三十五分、八時十分、八時四十五分（急行）

○東京鐵道　新橋發車時刻　●印ハ國府津下リ連絡（發行）六時四十分●七時五十五分、八時二十五分（急行）九時●十時●十時十五分、十時三十分●二時三十分、四時●四時五十五分（急行）六時●七時三十五分、八時四十五分、九時●十時十一時十五分（急行）十一時四十五分（急行）○横濱發（上リ）午前六時、七時三十五分、八時十分、八時四十五分（急行）九時●十時●十時十五分、十時三十分●二時三十分、四時●四時五十五分（急行）六時●七時三十五分、八時四十五分、九時●十時十一時十五分（急行）十一時四十五分（急行）○横濱發（上リ）午前七時、八時三十五分、十時十五分、十時二十五分、十時四十五分、午後二時五十五分、四時十五分、六時十五分、八時三十五分

○新橋發横濱行　新橋發午前六時、十時、午後一時、三時十分●御用發（下リ）午前七時三十五分、十時十五分、十時四十五分、午後四時（上リ）午前七時、八時十五分、十時四十五分、午後二時十五分、四時十五分、六時十五分、八時三十五分

○高等師範學校名古屋長崎間發車時刻　●印ハ國府津下リ連絡（發行）六時四十分●七時五十五分、八時二十五分（急行）九時●十時●十時十五分、十時三十分●二時三十分、四時●四時五十五分（急行）六時●七時三十五分、八時四十五分、九時●十時十一時十五分（急行）十一時四十五分（急行）○横濱發（上リ）午前六時、七時三十五分、八時十分、八時四